

国立大学法人 長岡技術科学大学
平成23年度第4回(第42回) 経営協議会議事要旨

日時 平成23年10月21日(金) 13時30分～15時20分
場所 ホテルニューオータニ長岡「雪椿」
出席者 新原議長、東委員、池田委員、江口委員、河野委員、神野委員、宮下委員、武藤委員、
高田委員、宮崎委員、三上委員、中村委員、齋藤(秀俊)委員
(議事の表決の委任による出席者：木谷委員、齋藤(彬夫)委員、山崎委員)
陪席者 平山監事、丸山監事、小松附属図書館長
事務局 総務部長、総務課長、広報室長、財務課副課長、財務課予算係長、総務課企画・評価
係長、総務課総務係係長、総務課総務係主任 以上 24名

議事に先立ち、第41回議事要旨(案)について説明があり、案のとおり承認した。

審議事項

1. 技術支援センターの設置に伴う規程の改正について

武藤委員から、資料1に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

主な質疑応答は、以下のとおり

- 技術職員が主体性を持って自分の仕事に誇りを持てるようになる組織改革は必要であり賛成。
- 大学の中での組織の位置付けが分かりにくい。
- 執行部と組織のつながりなど上から全体が見えるような組織を作っておく必要がある。他のセンターについても学長の下で統廃合等について見直しを進めているところ。

報告事項

1. 大学機関別認証評価について

武藤委員より、資料2に基づき、平成24年度に(独)大学評価・学位授与機構において認証評価を受信することについて報告があった。

2. 平成22年度に係る業務の実績に関する評価結果(原案)について

武藤委員より、資料3に基づき、国立大学法人評価委員会より評価結果(原案)の提示があったことについて報告があった。

3. 平成24年度概算要求について

宮崎委員より、資料4に基づき、概算要求の内定状況について報告があった。

主な質疑応答は、以下のとおり

- 新専攻の教員要求がゼロ査定だが、学内以外からの計画についてはどうなるのか。
- 厳しい査定だが、計画どおり外部からの人材も招くよう体制を考え対応したい。

- ものづくりに関するイノベーションにおいて、暗黙知はある意味、両刃の剣であるが、“暗黙知の見える化”に取り組む考え方は何か。
- 企業の持つ技術に技術サイエンスを融合させ、新しいイノベーションにつなげるような領域であり、日本でしかできないもの、技術を数値化してもなお残るものであり、この地域からスタートさせ、他の大学、高専、研究所、試験場とも連携していきたい。
- プロジェクト採択の査定ポイントは、震災復興、分散化（地域化）、グローバル。何が重要なのか国民の目線でマッチングがとれるものでないと厳しい。
- 本学における戦略の方向に沿ったもの、震災関連を取捨選択し要求を行った。

4. 国立大学の学部における定員超過の抑制について

宮崎委員より、資料5に基づき、報告があった。

主な質疑応答は、以下のとおり

- 少子化が進んでいく中で、定員割れは教育の質の低下以上に人材育成そのものが崩壊するのではないか。
- 定員を割ると経営等に関する社会的評価を下げることになる。
- 定員を確保することは非常に重要だと考えている。
- 質の問題として、学生を引き受けたという事は世の中に役立つ人間に育てる約束をする事。教える、指導する、育てる事に関して大学として、各教師としてどこまで努力したか、今後問われることになり、先生方に教育や研究の本務に集中できるよう一法人として努力していく必要がある。
- 私立大学では1.3倍の定員オーバーは極めて厳しい指導がなされており、同様の認識を持つべき。
- 本学では年により編入学生の入学辞退率の変動が大きいことも定員超過の一因。

5. その他

宮崎委員より、資料「平成22事業年度財務諸表の承認について(通知)」に基づき報告があった。

以上